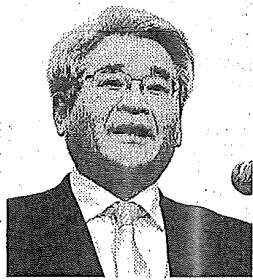


九州協建コン

九州から新たな風を

創立50周年記念式典

建設コンサルタント協会（建コン協）九州支部（福岡自治支部長）は7日、福岡市中央区の西鉄グランドホテルで支部創立50周年記念式典を開いた。写真上。支部会員企業や関係機関から約260人が出席。福岡支部長は開会あいさつで「魅力ある産業として新たな風を九州発で起こしていきたい」と宣言。永年会員会社表彰や50周年記念事業の一環として実施した「つぶやき土木写真コンテスト」の表彰などを行い、創立50周年の節目を祝うとともに、同支部と支部会員企業150社のさらなる飛躍を祈念した。



福岡支部長

開会あいさつで福岡支部長は「インフラ整備市場はメンテナンスが重要になり、長寿命化、使い方の工夫

の時代になっている。造る時代から事業環境は変化しているが、常に地域とともにある専門家としての立ち位置を堅持し、人々の安全・安心、生活を守り、地域の成長の一翼を担うというわれわれ建設コンサルタントの果たすべき役割は今後50年も変わらない」と強調。

その上で「災害多発国日本で人々の命を守る社会資本整備に役立つことがわれわれプロフェッショナルの使命だ。人口減少、少子高齢化社会の中で働き方を改革し、生産性を向上させ、会員企業を継続し、次なる時代に向かってオープンなイノベーションで協会本部門とも連携しながら魅力ある産業として新たな風を九州支部発で起こしていきたい

い」と力強く宣言した。

来賓の増田博行九州地方整備局長は「働き方改革、生産性革命、i-Construc-

tionと課題は山積しているが、業界全体、会員各位、日本の将来のため、しっかりとした取り組みをお願いしたい」、小川洋福岡県知事は「各地域の特色に合ったインフラ整備の橋渡し役として今後も専門的な知識を生かし、地域の発展、活性化に尽力いただきたい」とあいさつ。

建コン協の村田和夫会長は「もっと力を蓄えて会員増強につなげ、九州からいろいろな発信をしてほしい。協会活動が活発になれば日本、世界の社会資本整備が行き届く」と述べた。永年会員会社表彰では支部創立時からの会員企業19社に感謝状を贈呈した。

土木構造物などの写真に感じたことや詩などを添えた作品を募集した「つぶやき土木写真コンテスト」では応募207作品の中から

一般の部で高千穂大橋など三つの橋についてつぶやいた青野正夫さん、児童・生徒の部で牛頸ダムについてつぶやいた朝重陽太さんの作品をそれぞれ最優秀賞に選定したと発表。表彰式で受賞者に表彰状と記念品を贈った。

式典後には「アフガンに命の水を」と題しアフガニスタンで水路建設や医療活動などの支援を行っている中村哲医師の記念講演を開催。日本の伝統的な取水技術が生かされていることなどを紹介した中村氏は「人間と自然の関係を見つめ直すべき時期」と話し、より自然と折り合いをつけるよう土木技術を改善させるべきではないかと指摘した。

祝賀会では記念イベントとして会員企業の10チームが作成した建コン協のPR動画を競うCM総選挙があり、「チーム『夢と希望』」の作品が最優秀賞に選ばれた。